

# 国東市いじめ・不登校・貧困対策アクションプラン(令和2年度版)

## 1 いじめ・不登校・貧困の現状等

### ア いじめ・不登校の現状

(いじめ認知件数及び解消率等) (H30)

いじめ	小学校					中学校				
	件数	1000人当 たり	いじめ0 の校数	解消数	解消率	件数	1000人当 たり	いじめ0 の校数	解消数	解消率
国東市	426	383.0	0	379	89.0%	44	73.8	0	39	88.9%

(不登校児童生徒数及び1000人当たりの不登校児童生徒の出現率)

不登校		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		令和2年度(10月末)	
		人数	1000人 あたり	人数	1000人 あたり	人数	1000人 あたり	人数	1000人 あたり	人数	1000人 あたり	人数	1000人 あたり
小学校	県	274	4.6人	308	5.2人	282	4.8人	368	6.2人	437	7.3人		
	国東市	1	0.8人	4	3.3人	3	2.6人	1	0.9人	3	2.7人	3	2.7人
中学校	県	957	31.3人	865	28.9人	932	31.2人	975	33.6人	1162	39.1人		
	国東市	13	17.9人	12	18人	16	25.4人	11	18.2人	8	13.4人	2	3.6人

### イ いじめ・不登校・貧困の分析

<いじめ>  
 ・認知件数が大幅に増えた。(H29 小:186件 中:22件)これまで以上に、児童生徒の些細な変化も見逃さないという姿勢で、各学校がいじめの積極的認知に取り組んできたからだと思う。  
 ・いじめ解消率は、小学校はやや下がったが、中学校は上がった。(H29 全体:88.0% 小:90.3% 中:68.2%)  
 認知件数が大幅に増えた中、解消率が上がったことはよい変化だといえる。  
 ・認知件数ゼロの学校はなかった。  
 <不登校>  
 ・小・中学校ともに、1000人あたりの人数は県平均よりも低い。  
 ・スタートプログラムを中心とした、中学校の環境への適応に向けた丁寧な取組及び小中連携の充実により、10月末までの中学校1年生の不登校生徒は0名である。  
 <貧困>・不登校の主な要因が「貧困」ではないが、無関係ではないケースも見られた。

### ウ いじめ・不登校・貧困の課題

<いじめ>  
 ◆認知件数に学校間格差が見られる。  
 ◆認知した後の情報共有や対応が組織的に行われていないケースがあった。  
 <不登校>  
 ◆学校以外とのつながりがないケースがあり、学校とのつながりも薄い状況がある。  
 ◆みんなが参加でき、わかる授業の推進(新大分スタンダード、授業のユニバーサルデザイン化)  
 ◆SC、SSW、教育支援センター(適応指導教室)、福祉課等との連携が充分ではないケースがある。  
 <貧困>  
 ・家庭状況が貧困かどうかについての把握は十分ではない。

## 2 令和2年度の市町村の目標及び取組

### ア 不登校児童生徒数及び出現率の目標値(令和2年度末値)

	在籍者数	不登校者数	1000人当たりの不登校者数
全小学校	1112	2	1.8人
全中学校	596	6	10.1人

### イ いじめ解消率の目標(令和2年度末値)

	解消率	
全小学校	90%	R1:1学期 31.1%
全中学校	90%	R1:1学期 23.5%

### ウ いじめ・不登校・貧困対策の取組(令和2年度)

- <計画・組織>  
 ○ 各学校の「いじめ対策・不登校児童生徒支援プラン」の作成・見直し・改善  
 ○ 中学校1年生の適応促進に向けた組織的取組  
 ・小中連携会議の活性化と、アプローチプログラム・スタートプログラムの検証・改善  
 <未然防止「あったかハート」>  
 ○ 未然防止の視点からの不登校対策の推進  
 ・hyper-QUの実施と活用の充実(小学校5・6年、中学校全学年、職員のQU会議)  
 ・人間関係づくりプログラムの組織的・計画的な実施の推進と集団づくり研修会の実施(2月)【新】  
 ○ 全員参加の「分かる」授業の促進  
 <早期発見「ほっとハート」>  
 ○ いじめ見逃しゼロ、新規の不登校を生まない教育相談体制の構築  
 ・市教委、SC、SSW、教育支援センター(適応指導教室)、福祉課、保健センター等との早期連携  
 ・市内全学校の欠席把握と早期支援対応の推進  
 <解決支援「にっこりハート」>  
 ○ 各校の教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制の充実  
 ○ 市教委と福祉部局、民間組織(必要に応じて)等が連携した不登校対策推進会議への参画【新】  
 ・家庭環境に起因する問題を抱える子どもの早期支援に向けて、関係機関とつながる体制の構築  
 ・教育支援センター(適応指導教室)や民間団体と連携した不登校支援  
 ・福祉課、児童相談所、警察等との連携会議

## 3 地域児童生徒支援コーディネーターの活用計画(拠点校)

### ア 地域児童生徒支援コーディネーター配置希望校(令和2年度)

拠点校名
国東市立国東中学校(生徒数195名)

### 選定の理由

- ◆地域児童生徒支援コーディネーター配置の2年目である。
- ◆本校と教育支援センター(適応指導教室)が近いため、関係機関とも連携がとりやすい。
- ◆国東市内では生徒数の多い学校であり、教育相談体制の取組効果を広げやすい。
- ◆小中連携配置のSCを国東中に配置しており、SCを含め、小中連携した取組を行うのに適している。

### イ 不登校児童生徒数及び出現率の目標値(令和2年度末値)

学校名	在籍者数	いじめ解消率	不登校数
国東市立国東中学校	195	90%	0

### ウ 拠点校での活用内容(地域モデルの構築)

- <計画・組織>  
 ◇ 校内「いじめ対策・不登校児童生徒支援プラン」の作成・改善  
 ・プランの作成と定期的な見直し・改善  
 ◇ SC、SSW等が参画したいじめ・不登校対策委員会の構築  
 ・SC・SSWの有効活用に向けた日程調整等のコーディネート、福祉課との連携【新】  
 <未然防止「あったかハート」>  
 ◇ 「絆」、「居場所づくり」を意識した学級づくり、特別活動の実践指導  
 ・hyper-QUの結果を基にした取組や情報共有会議の企画・推進  
 ・スタートプログラムの実践と、2年生版スタートプログラムの作成と実践  
 ・「人間関係づくりプログラム」の実践の推進(全学年、各学期に1回以上)  
 ◇ 生徒指導の3機能を意識した「分かる授業」の展開  
 ・研究主任と連携した授業改善の推進(新大分スタンダード、ユニバーサルデザインの授業)  
 ◇ 校区内小・中学校との効果的な連携支援の推進  
 ・校区内小学校の児童の観察と情報共有、スタートプログラムの工夫・改善  
 ◇ スクールロイヤーによる「いじめ予防に関連する授業」の計画・実施  
 <早期発見「ほっとハート」>  
 ◇ いじめ・不登校の早期発見のための組織体制の構築  
 ・学年部との連携強化と組織的・計画的な早期対応(SC・SSWとの連携含む)  
 ・校内ケース会議の実施と、要請に応じた他校のケース会議への参加  
 ・「児童生徒支援シート」等の作成と活用【新】  
 <解決支援「にっこりハート」>  
 ◇ 児童生徒・保護者の思いに寄り添ったいじめ解消や不登校支援の推進  
 ・不登校生徒や相談室登校生徒への支援と家庭訪問等、組織的対応の検討と推進  
 ・教育支援センター(適応指導教室)スタッフ会議、SC連絡協議会への参加

### エ 拠点校での年間計画

月	事業内容
4	教職員研修①(不登校の分析とスタートプログラム、アプローチプログラムの説明・共通理解)
5	小中連携会議①
6	教職員研修②(発達障がい)
7	QU情報共有会議
8	小中連携会議②
9	8月末～長期休業明け生徒指導
10	小中連携会議③(支援が必要な児童の観察等)
11	教職員研修③(いじめ防止対策推進法等)
12	QU情報共有会議
1	長期休業明け生徒指導、小中連携会議④
2	教職員研修④(ケース会議)
3	小中連携会議⑤(情報交換)

## 4 地域児童生徒支援コーディネーターの活用計画(教育委員会)

### ア 教育委員会での活用内容

地域児童生徒支援コーディネーターの活動日数(標準)  
 市教委等での活動=週2~3日(市教委・関係機関・学校訪問)  
 拠点校での活動=週2~3日[授業時間数は週あたり原則6時間以内]

- <計画・組織>  
 ◇ 校区内の小学校の定期的な訪問による指導・助言  
 ・要請に応じた学校訪問とケース会議等への参加  
 ・児童観察や情報交換の実施に係る小中連携の支援  
 ◇ 市町村及び各学校のいじめ・不登校対策委員会の活性化の推進  
 ・市内各学校の教育相談コーディネーターへの訪問(1学期中)  
 <未然防止「あったかハート」>  
 ◇ 「絆」と「居場所」を意識した共感的な人間関係づくりのサポート  
 ・校区内小学校での集団づくり活動の実施(各学校1回以上)  
 ◇ 市教委主催の生徒指導担当者研修会での講師、助言者としての活用  
 ・生徒指導に係る研修会等での、拠点校の効果的な取組の普及  
 ・自校での「人間関係づくりプログラム」の実践報告【新】  
 ◇ 「児童生徒支援シート」や「スタートプログラム」等を活用した小・中学校の連携  
 ・アプローチプログラム・スタートプログラムの実践と改善による小中の接続支援  
 ・「児童生徒支援シート」の作成と引き継ぎ等、有効活用の推進  
 ◇ 中学校・高等学校の連携【新】  
 ・中学校卒業生の通学する高等学校を訪問しての情報交換  
 <早期発見「ほっとハート」>  
 ◇ 市町村初期欠席対応システム構築の推進  
 3日連続欠席の児童生徒の把握  
 各学校のいじめ状況・欠席データの集計分析  
 ◇ 各種アンケート調査の実施・分析と教育相談体制の充実  
 ・自校研修や生徒指導担当者会等でのhyper-QUの説明や取組等の紹介  
 <解決支援「にっこりハート」>  
 ◇ 教育委員会と福祉部局、民間組織(必要に応じて)等が連携した不登校対策推進会議への参画  
 ・教育支援センター(適応指導教室)や民間団体と連携した不登校支援  
 ・SC・SSW等と連携したケース会議への参加

### イ 教育委員会での年間計画

月	事業内容
定期的活動	教育支援センター(適応指導教室)スタッフ会議(毎月1回・福祉課含む) S S W連絡会議(毎月1回)・不登校生徒への支援 (要請に応じて)各学校の対策委員会に出席
4	生徒指導主事・生活指導主任会①・QU担当者会議 スタートプログラム・アプローチプログラムの取組確認
5	S C連絡協議会(福祉課・S S W含む) 教育支援センター(適応指導教室)巡回訪問
6	令和元年度問題行動等調査の分析 地域児童生徒支援コーディネーターの定期的な学校訪問
7	1学期市内いじめ・不登校状況の分析 S C連絡協議会(福祉課・S S W含む)
8	生徒指導主事・生活指導主任研修会②・教育相談コーディネーター研修 教育支援センター(適応指導教室)との連携による不登校生徒への支援 中学校区毎に小学校6年の交流・小中連携
9	長期休業明けのいじめ・不登校状況の分析
10	半期市内いじめ・不登校状況の分析
11	各学校のいじめ・不登校対策プランの検証・改善 生徒指導主事・生活指導主任研修会③
12	2学期市内いじめ・不登校状況の分析
1	長期休業明けのいじめ・不登校状況の分析
2	次年度スタートプログラム・アプローチプログラムの協議 集団づくり研修
3	令和元年度問題行動等調査の分析 小中連携会議

## 5 中学校学習支援加配について

- ◆中学校学習支援加配配置に関する市町村教育委員会の要望